

その他

シルバー人材センター入会案内説明会
日時 6月7日(金)午前10時〜正午
会場 生活・保健センター
内容 事業紹介、概要説明
対象 60歳以上の方※清掃・保育士・子供と接する仕事を希望する方歓迎
問 日野市シルバー人材センター(☎581・8171)

日野市社会福祉協議会会員募集
地域福祉活動の応援を
会費は高齢者や障害者支援のほか、地域の福祉・防災教育など幅広い活動の貴重な財源となります。個人1口1千円以上・団体1口5千円です。なお、1千円未満でも福祉協力金としてお預かりします。
申込 中央福祉センター、福祉支援センター、市役所2階福祉政策課、七生支所で受け付け
問 同協議会(☎582・2319)

夏の体験ボランティア2019参加者募集
夏休みを活用してボランティアにチャレンジしてみませんか。約80のプログラムから好きな活動を選んで参加できます。
日程 7月20日(土)〜8月31日(土)
活動場所 高齢者施設、障害者施設、

なくそう就職差別

問われる企業と社会の人権感覚

6月は就職差別解消促進月間

仕事は、生活の安定や労働を通じた社会参加など、人間が幸せに生きていく上で基本となるものです。このため、採用選考は応募者の適性と能力に基づき公正に行われなければなりません。しかしながら、面接時に本籍地や思想・信条を聞くなど、就職差別につながる恐れのある事例が現在もあります。
東京都では6月を「就職差別解消促進月間」とし、就職差別を無くし就職の機会均等を確保するため、東京労働局やハローワークなどと連携してさまざまな啓発活動を展開します。

保育園、環境団体など※活動場所の決定は7月6日(土)午後2時30分〜4時に一中で行う説明会への出席者を優先
対象 小学生以上の方
費用 500円(保険料含む)
申込 日野市ボランティア・センター窓口または日野市社会福祉協議会
問 同センター(☎582・2318)

第17回多摩ブルー・グリーン賞募集

多摩ブルー・グリーン賞は、多摩地域の中小企業の活性化と地域経済の振興に寄与することを目的とし

た、多摩信用金庫が主催する顕彰制度です。優れた技術・製品を表彰する「多摩ブルー賞」と、新しいビジネスモデルを表彰する「多摩グリーン賞」があり、各最優秀賞に副賞100万円、各優秀賞に副賞50万円を贈呈します。また、受賞企業は、多摩ブルー・グリーン倶楽部にて有機的なつながりによる新たな事業展開も期待できます。ぜひ、ご応募ください。
募集期間 7月31日(水)まで
対象 多摩地域と周辺地域に事業拠点を置く中小企業・個人事業主など
問 多摩ブルー・グリーン賞事務局(☎042・526・7728)

日野映像支援隊から

日野映像支援隊のロケ情報！映画「貞子」の撮影が日野市で行われました

伝説の「リング」オリジナルチームがSNS時代に放つ、恐怖の【原点】！
ホラー映画史上No.1シリーズ最新作、5月24日(金)から全国公開中です。
出演 池田エライザほか 原作 鈴木光司「タイド」(角川ホラー文庫刊) 監督 中田秀夫 脚本 杉原憲明 音楽 海田庄吾 配給 KADOKAWA
問 シティセールス推進課(☎514-8461)



みんなのちよぼれ話 35

高幡出身の自由民権家森久保作蔵の末弟重太郎は、明治20年(1887)4月に渡米しました。前年12月には自由民権運動の指導者石坂昌孝の長男公歴が、20年8月には日野宿の有山彦吉と豊田村の山口清之助、25年には森久保作蔵の長男善太郎が、それぞれ渡米しています。善太郎は、スタンフォード大学(学位)とエール大学(修士)卒業後、明治42年に帰国しましたが、重太郎は生涯米国で暮らしました。しかしその道のりは決して易しいものではありませんでした。重太郎は、カリフォ

日本人で最初のカイロプラクター森久保重太郎

ルニア大学バークレー校で神学と形而上学を学びましたが、キリスト教メソジスト監督教会に入信したことで家とは疎遠になり、同34年、ミネソタ州に移っています。その後、日露戦争で東洋の国日本が勝利したことで、米國で黄禍論が加熱し、アジア人排斥運動も起こる中、彼は終生、日本人の文化や習慣、気質について講演し、現地での日本理解に努めました。
明治37年以降は治療師として活躍し、アメリカの手技療法であるオステオパシーやカイロプラクティック、磁気療法や電気治療など、統合的な医療分野



▲明治20年4月15日、アメリカ洋行前(右から善太郎、重太郎、作蔵)

問 総務課(☎514・8128) ID 1008546

同和問題

同和問題とは、日本社会の歴史的發展の過程で形づくられた身分制度や、歴史的、社会的に形成された人々の意識に起因する差別が、さまざまな形で現れているわが国固有の重大な人権問題です。
現在もなお、同和地区(被差別部落)の出身という理由で、さまざまな差別を受け、基本的人権を侵害されている人々がいます。

封建時代において、えた、ひにんなどと呼ばれていた人々は、武器・馬具や多くの生活用品に必要な皮革をつくる仕事や、役人のもとで地域の警備を行うなど、生活に欠かせない役目を担っていました。しかしながら、住む場所、仕事、結婚、交際など、生活のすべての面で厳しい制限を受け、差別されてきました。それらの人々が住まわさ

このような差別を無くすためには、私たち一人ひとりが、まず同和問題を理解し、差別について知るとともに、差別したり、差別を見逃したりすることのないよう行動していくことが大切です。
また、平成28年12月には「部落差別の解消の推進に関する法律」が施行され、部落差別の解消に関し、基本理念、国および地方公共団体の責務などについて定

★東京都発行の人権啓発冊子「みんなの人権」「明るい社会をめざして」と「同和問題の理解のために」を市役所1階市民相談窓口や市内各図書館で配布しています。ぜひ、お読みください。

▼人権啓発映画会
日時 6月4日(火)午後1時30分〜4時45分
会場 台東区生涯学習センター
内容 映画上映「公正な採用選考が企業にもたらすもの」、「Ainu(アイヌ)」
定員 申込制で先着300人
申込 電話
問 (公財)東京都人権啓発センター(☎03・6722・0085)
▼就職差別解消シンポジウム
日時 6月12日(水)午後1時〜4時15分
会場 文京シビックセンター※直接会場へ
内容 ①基調講演「就職差別の完全な撤廃を求めて」就職差別撤廃東京実行委員会の活